

平成30年～令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター
施 設 名	静岡県舞台芸術センター(SPAC)
助 成 対 象 活 動 名	演劇創造の世界的拠点強化事業
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	平成30年度 61,991 平成31年度 57,702 令和2年度 56,447 (千円) 令和3年度 54,375 令和4年度 59,355

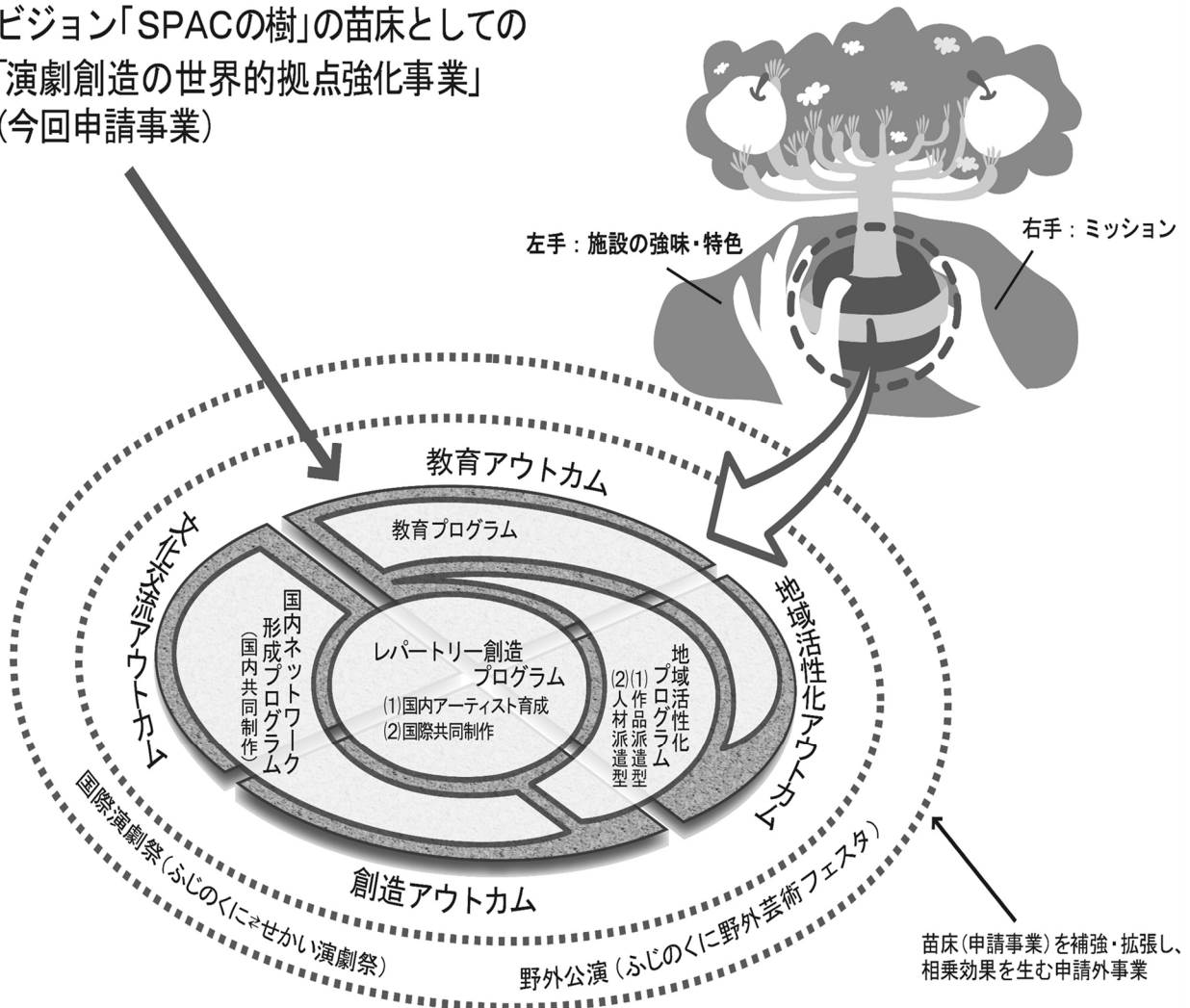
1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図(概念図)

(事業名) 演劇創造の世界的拠点強化事業

ビジョン「SPACの樹」の苗床としての
「演劇創造の世界的拠点強化事業」
(今回申請事業)



この全体図(概念図)は、【(1)妥当性】にて後述する[劇場・音楽堂等のビジョン]を前提としており、「演劇創造の世界的拠点強化事業」が実施される5年間で、当該「ビジョン」で示した「SPACの樹」(=15年後のSPACのイメージ)の「苗床」と位置づけている。

その「苗床」の構造としての「本事業のアウトカム」は、【創造アウトカム】【文化交流アウトカム】【教育アウトカム】【地域活性化アウトカム】の4つで構成されている。

また、各アウトカムを発揮する個別事業は、「レパートリー創造プログラム」「国内ネットワーク形成プログラム」「教育プログラム」「地域活性化プログラム」に分類される。これらの各事業分類はそれぞれ複数のアウトカムを発揮するため、本図では、各事業分類をそれぞれが発揮する複数のアウトカムをまたぐ形で配置している。

(なお、申請外事業の国際演劇祭(ふじのくにせかい演劇祭)および野外公演(ふじのくに野外芸術フェスタ)も、今回申請事業と連動し相乗効果を発揮するため、それぞれ、今回の申請における4アウトカムの外縁の位置に配置した。)

(2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム (1)国内の優れたアーティストとの作品創造①『夜叉ヶ池』『パール・ギュント』『人形の家』	令和4年5月～令和5年3月	『夜叉ヶ池』 『パール・ギュント』 『人形の家』 演出:宮城聡 出演:SPAC	目標値	10,730
		静岡芸術劇場		実績値	6,293
2	レパトリー創造プログラム (1)国内の優れたアーティストとの作品創造②『リチャード二世』	令和5年1～2月	『リチャード二世』 演出:寺内亜矢子 出演:SPAC	目標値	2,920
		静岡芸術劇場		実績値	3,257
3	レパトリー創造プログラム (2)国際共同制作『守銭奴』	令和4年11～12月	『守銭奴』 演出:ジャン・ランベール＝ヴィルド 出演:SPAC	目標値	3,600
		静岡芸術劇場		実績値	3,568
4	国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作)『夢と錯乱』<東京芸術祭2022参加作品>	令和4年10月	『夢と錯乱』 演出:宮城聡 出演:美加理	目標値	660
		東京芸術劇場		実績値	503
5	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS=スパカンファンプラス	令和4年7～8月	振付・演出:メルラン・ニヤカム 出演:静岡県内の中高生、55歳以上のメンバー	目標値	420
		静岡芸術劇場		実績値	314
6	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	令和4年7～8月	演出・指導:中野真希 指導アシスタント:SPAC 出演:静岡県内の中高生	目標値	500
		静岡芸術劇場		実績値	403
7	教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業～SPAC演劇奇跡のレッスン～	令和4年7月～令和5年3月	「SPACプレゼンツ演劇出前塾」 「SPAC1日演劇学校」 講師:SPAC	目標値	140
		静岡県内高校		実績値	83
8	教育プログラム(4) SPACこども大会	令和5年3月	出演:静岡県内在住の小学生 司会・チューター:SPAC	目標値	245
		静岡芸術劇場		実績値	396

9	地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業「SPAC 出張ラヂオ局」 「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」	令和4年7月～令和5年2月	「SPAC 出張ラヂオ局」 「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」 出演:SPAC	目標値	1,310
		静岡県内幼稚園・保育園		実績値	793
10	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業「ひらけ！パフォーミングアーツのとびら」 「リーディング・カフェ」 「バリアフリーワークショップ」 「出張講座・人材派遣」	令和4年4月～令和5年3月	「ひらけ！パフォーミングアーツのとびら」 「リーディング・カフェ」 「出張講座・人材派遣」	目標値	2,450
		静岡県内小中学校		実績値	2,287

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム (1) 国内の優れたアーティストとの作品創造『夜叉ヶ池』	令和4年1月13日～3月11日	演出: 宮城聡 出演: SPAC	目標値	8,400
		静岡芸術劇場		実績値	3,750※
2	レパトリー創造プログラム (2) 国際共同制作①『みつばち共和国』	令和3年10月1日～11月26日	作・演出: セリーヌ・シェフェール 出演: SPAC	目標値	9,155
		静岡芸術劇場		実績値	2,975※
3	レパトリー創造プログラム (2) 国際共同制作② 『House of Us－Hamlet / Sometimes I feel so lonely even my shadow disappears』	令和4年3月4日～	構成・演出: イリーナ・ブルック	目標値	360
		オンライン		実績値	—※
4	国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作)静岡 県文化プログラム SPAC 『忠臣蔵 2021』	令和3年6月5日・6日	作: 平田オリザ 総合演出: 宮城聡 演出: 寺内亜矢子、牧山祐大 出演: SPAC 俳優および市民参加者	目標値	750
		静岡県舞台芸術公園 野外劇場「有度」		実績値	520※
5	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS=ス パカンファン-プラス	令和3年7月～令和4年3月	振付・演出: メルラン・ニヤカム 振付アシスタント: 太田垣悠 参加: 静岡県内の中高生と55歳以上のメンバー	目標値	200
		静岡県舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」		実績値	25※
6	教育プログラム(2) SPAC シアタースクール	令和3年7月～9月	指導: 中野真希 指導アシスタント: SPAC 参加: 静岡県内の中高生	目標値	参加者 40 発表会 500
		静岡県舞台芸術公園 野外劇場「有度」		実績値	参加者 20 配信 661
7	教育プログラム(3) 中学 高校演劇支援事業～ SPAC 演劇奇跡のレッスン～	令和3年10月～令和4年3月	「SPAC プレゼンツ 演劇出前塾」 「SPAC 1日演劇学校」 講師: SPAC	目標値	180
		静岡県内9校		実績値	174※
8	教育プログラム(4) SPAC こども大会	令和4年3月13日、19日	出演: 静岡県内在住の小学生 司会・チューター: SPAC	目標値	参加者 30組 発表会 245名
		静岡芸術劇場		実績値	参加者 26組 49名 発表会 286名

9	地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業	令和3年4月～12月	「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」 「でんわ de 名作劇場」 出演:SPAC	目標値	1,795
		静岡県内 18 会場		実績値	1,380
10	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業①「放課後えんげき教室」 、「リーディング・カフェ」 、「出張ラヂオ局」 、「出張講座・ワークショップ・人材派遣」	令和3年5月～令和4年3月		目標値	1,805
		静岡県内 21 会場	「放課後えんげき教室」 「オンライン・リーディング・カフェ」 「出張ラヂオ局」 「出張講座・ワークショップ・人材派遣」	実績値	1,230
11	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業②「みんなで育てよう! ダンスの種プロジェクト」	令和3年6月～7月、 12月～令和4年3月		目標値	450
		静岡県内 7 会場	講師:太田垣悠 アシスタント:SPAC	実績値	339

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム (1) 国内の優れたアーティストとの作品創造『病は気から』『ハムレット』	令和3年1月14日(木) ～3月11日(木)	『病は気から』演出:ノゾエ征爾 『ハムレット』演出:宮城聡 出演:SPAC	目標値	7,300
		静岡芸術劇場		実績値	6,390※
2	レパトリー創造プログラム (2) 国際共同制作①『妖怪の国の与太郎』	令和2年10月1日(木) ～12月20日(日)	演出:ジャン・ランベール=ヴィルド、ロレンゾ・マラゲラ 出演:SPAC	目標値	10,085
		静岡市民文化会館		実績値	10,613※
3	レパトリー創造プログラム (2) 国際共同制作② 『House of Us - Hamlet/Sometimes I feel so lonely even my shadow disappears』	令和2年9月19日(土) ～22日(火・祝)※	新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度に延期した。	目標値	360
		静岡県舞台芸術公園		実績値	—※
4	レパトリー創造プログラム (2) 国際共同制作③『みづばち共和国』	令和2年10月17日(土) ～26日(日)	作・演出:セリーヌ・シェフェール 出演:SPAC	目標値	400
		静岡県舞台芸術公園 屋内ホール「椿円堂」		実績値	254※
5	国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作)静岡県文化プログラム SPAC『忠臣蔵 2020』	令和2年8月16日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度に延期した。	目標値	1,300
		グランシップ 大ホール		実績値	—※
6	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS=スパカンファン-プラス	令和2年8月、令和3年1～3月※	振付:メルラン・ニヤカム 振付アシスタント:太田垣悠 参加:静岡県内の中高生と55歳以上の方	目標値	200
		オンラインにて実施		実績値	31※
7	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	令和2年8月9日(日)～ 23日(日)※	指導:中野真希 指導アシスタント:SPAC 参加:静岡県内の中学2年～高校2年	目標値	参加者 40、入場 者 500
		オンラインにて実施		実績値	参加者 14、入場 者 —※
8	教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業 ～SPAC演劇奇跡のレッスン～	令和3年2月～令和3年 3月※	「SPACプレゼンツ 演劇出前塾」 「動画で開講! SPAC1日演劇学校」 講師:SPAC	目標値	A150、 B28、C56
		静岡県内5校 およびオンライン実施 およびオンライン実施		実績値	A48、 B139、C —※
9	教育プログラム(4) SPACこども大会	令和3年3月20日(土)、 21日(日)	出演:静岡県内在住の小学生 司会・チューター:SPAC	目標値	参加者 30 組、入場 者 245
		静岡芸術劇場		実績値	参加者 36 組 63名、 入場者 166※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
10	地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業	令和2年8月～令和3年 3月※	「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」 出演:SPAC	目標値	A560、 B1,625
		静岡県内 25 会場		実績値	A651、 B961※
11	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業①「放課後えんげき教室」 「リーディング・カフェ」「出張講座・ワークショップ・人材派遣」	令和2年8月～令和3年 2月※	「放課後えんげき教室」 「オンライン・リーディング・カフェ」 「出張講座・ワークショップ・人材派遣」	目標値	A600、 B165、 C1,800
		静岡県内 21 会場・団体 (オンライン開催を含む)		実績値	A247、 B26、 C2,397※
12	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業②「みんなで育てよう！ダンスの種」	令和2年8月19日(水)、 12月4日(水)	「みんなで育てよう！ダンスの種プロジェクト」	目標値	450
		長田体育館、賤機都市山村交流センター		実績値	41

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(5) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム (1)国内の優れたアーティストとの作品創造	平成31年12月～ 令和2年2月	『RITA&RICO(リタとリコ)～「セチュアンの善人」より～』演出:渡辺敬彦 『グリム童話～少女と悪魔と風車小屋～』演出:宮城聡 『メナム河の日本人』※ 演出:今井朋彦 出演:SPAC (※新型コロナウイルスの影響により令和2年2月28日～3月11日の公演を中止した。)	目標値	11,808
		静岡芸術劇場		実績値	7,624
2	レパトリー創造プログラム (2)国際共同制作	平成31年6月・11月	『イナバとナバホの白兔』演出:宮城聡 『パール・ギュントたち～わくらばの夢～』演出:ユディ・タジュディン 出演:SPAC	目標値	3,940
		静岡芸術劇場		実績値	3,005
3	国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作) 愛知県芸術劇場・SPAC 共同企画『寿歌』	平成31年10月	『寿歌』演出:宮城聡、出演:SPAC	目標値	3,828
		静岡芸術劇場		実績値	2,838
4	教育プログラム(1)SPAC-ENFANTS-PLUS	平成31年8月	「メルラン・ニヤカムによる創作ワークショップ」 振付・演出:メルラン・ニヤカム	目標値	80
		舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」		実績値	123
5	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	平成31年7月・8月	『オフェリアと影の一座』 構成・演出:中野真希	目標値	参加者:40 入場者:500
		静岡芸術劇場		実績値	参加者:41 入場者:666
6	教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業～SPAC演劇奇跡のレッスン～	平成31年6月～ 令和2年2月	「SPACプレゼンツ 演劇出前塾」 「SPAC1日演劇学校」 「バックステージツアー」 (※新型コロナウイルスの影響により令和2年3月の事業を中止した。)	目標値	445
		静岡県内高校 他		実績値	99

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
7	教育プログラム(4) SPAC こども大会		※中止(※新型コロナウイルスの影響により令和2年度へ延期した。)	目標値	参加者:30組 入場者:245
				実績値	応募者数: 29組 60名
8	地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業	平成31年4月～ 令和2年2月	「SPAC出張朗読公演・出張劇場」 「SPACおはなし劇場」 出演:SPAC (※新型コロナウイルスの影響により 令和2年3月の事業を中止した。)	目標値	2,780
		各市町幼稚園 他		実績値	3,487
9	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業①	平成31年4月～ 令和2年2月	「放課後えんげき教室」 「リーディング・カフェ」 「出張講座・ワークショップ・人材派遣」 (※新型コロナウイルスの影響により 令和2年3月の事業を中止した。)	目標値	1,975
		各市町文化施設 他		実績値	2,067
10	地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業②	平成31年6月～11 月	「みんなで育てよう!ダンスの種プロジェクト」	目標値	600
		各市町小学校		実績値	784

(6) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム(1) 国内の優れたアーティストとの作品創造	2018年10月～12月	『授業』演出:西悟志/『歯車』演出:多田淳之介出演:SPAC	目標値	9,500
		静岡芸術劇場		実績値	一般公演: 2,005 中高生鑑賞: 5,771
2	レパトリー創造プログラム(2) 国際共同制作	2019年1月～3月	『顕れ』演出:宮城聡/『妖怪の国の与太郎』演出:ジャン・ランベール=ヴィルド&ロレンゾ・マラゲラ出演:SPAC	目標値	9,700
		静岡芸術劇場		実績値	一般公演: 2,503 中高生鑑賞: 8,957
3	国内ネットワーク形成プログラム (1)Noism× SPAC	2018年7月21日・22日	劇的舞踊 vol.4 『ROMEO&JULIETS』 演出振付:金森穰 出演:Noism1、SPAC	目標値	446
		静岡芸術劇場		実績値	617
4	国内ネットワーク形成プログラム (2)京都造形 芸術大学舞台芸術研究センター ×SPAC	2018年6月9日・10日	ポール・クローデル生誕150周年記念『緋子の靴』 翻訳・構成・演出:渡邊守章	目標値	455
		静岡芸術劇場		実績値	591
5	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクト	2018年8月26日	『ANGELS ～空は翼によって測られる～』 振付・演出:メルラン・ニヤカム	目標値	280
		静岡芸術劇場		実績値	入場者208 参加者12
6	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	2018年8月17日・18日	『十二夜』 潤色・演出:中野真希	目標値	参加者40 入場者500
		静岡芸術劇場		実績値	参加者37 入場者549
7	教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業 ～SPAC 演劇奇跡のレッスン～	2018年4月～2019年3月	「SPAC プレゼンツ 演劇出前塾」 「SPAC1日演劇学校」 「バックステージツアー」	目標値	112
		静岡県内高校 他		実績値	154
8	教育プログラム(4) SPAC 子ども大会	2019年3月17日	出演:静岡県内在住の小中学生 司会・チューター:SPAC 専属俳優	目標値	参加者30組 入場者350名
		静岡芸術劇場		実績値	参加者21組 入場者316名
9	地域活性化プログラム (1) 作品派遣型アウトリーチ事業	2018年4月～2019年3月	「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」出演:SPAC 専属俳優ほか	目標値	4,820
		各市幼稚園 他		実績値	3,584
10	地域活性化プログラム (2) 人材派遣型アウトリーチ事業	2018年4月～2019年3月	「放課後えんげき・ダンス教室」 「みんなで育てよう! ダンスの種プロジェクト」 「リーディング・カフェ」ほか	目標値	2,145
		県内中学校 他		実績値	3,043

2. 自己評価

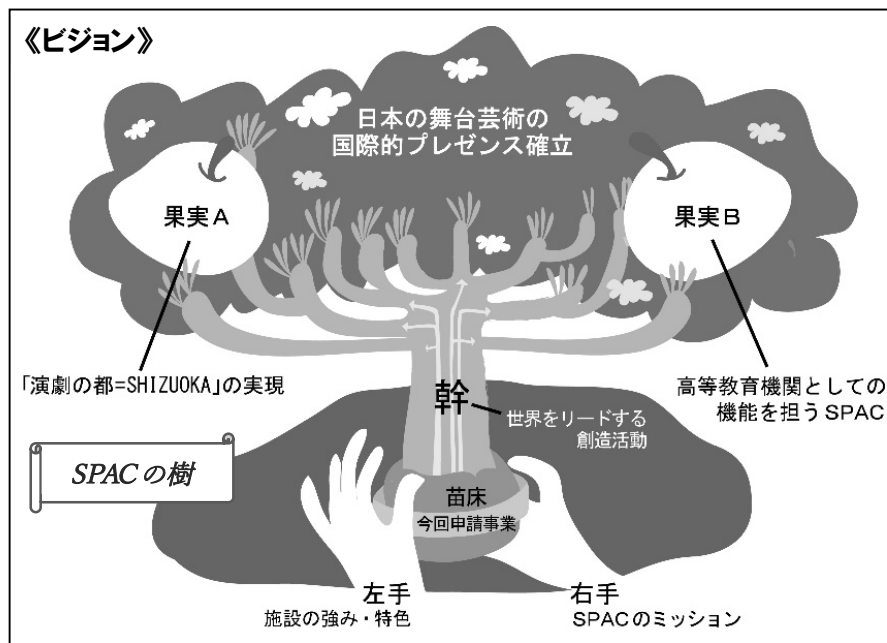
(1) 妥当性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

SPAC は、日本で唯一の〈専用劇場を持った公立劇団〉であるという独自性と、国内外で高い評価を得てきた 20 年以上にわたる演劇創造活動の蓄積を生かし、〈世界をリードする創造活動によって、日本文化の国際的プレゼンスを高める〉というミッションに向けて、「演劇創造の世界的拠点強化事業」を実施した。本事業のビジョンは、〈日本の舞台芸術の国際的プレゼンス確立〉であり、その結果もたらされるソーシャルインパクト(2つの果実)として、静岡が〈世界中から演劇ファンが集まる「演劇の都=SHIZUOKA」〉となり、SPACが〈世界中から優秀な人材が集まる、演劇における高等教育機関〉となる事を想定。そのための“苗床”として、本事業を位置づけ(下図参照)、以下1)～4)のプログラムを実施した。

人口減少、少子高齢化が進む静岡県は、「静岡県文化振興基本計画(第5期/令和4～7年度)」において、重点施策として、〈世界に輝かずおかの文化芸術の振興〉や〈文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進〉等を掲げ、その具体的な取り組みとして、SPAC の事業を位置付けている。こうした静岡県のスタンスと本事業の目指すところは大きくリンクしていると言える。



1) レパトリー創造プログラム

国内外のアーティストとタッグを組み、10 本の新作を含む 20 本の作品を上演することができた。平成 31 年度より、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、創作活動を一時中断せざるを得なかったが、感染症対策のためのガイドラインを独自に設けた上で、マスクを衣裳のデザインの一部とするなど、感染対策による〈制限〉

を、新しい表現を生み出す〈創造性〉へと転換させることができた。上の表のとおり、概ね事業は実施できたと言えるが、令和2年度はコロナ禍の影響により、中高生鑑賞事業参加校のキャンセルが相次ぎ、公演数・観客数ともに当初の目標値よりも 50%以上の減となっている。

※カッコ内は目標値

年度	作品数	公演数	観客数
H30	4 (4)	85 (109)	19,236 (19,200)
H31	5 (5)	50 (62)	10,629 (15,748)
R2	4 (5)	64 (59)	17,257 (18,145)
R3	2 (3)	42 (92)	6,725 (17,915)
R4	5 (5)	81 (85)	13,118 (17,250)
合計	20 (22)	322 (407)	66,965 (88,258)

2) 国内ネットワーク形成プログラム

※カッコ内は目標値

県内外の劇場等と連携し、5本の作品を創作・上演した。令和2年度に実施予定だった市民参加劇『忠臣蔵』は、コロナ禍の影響等により1年延期とし、令和3年度に感染対策を施したうえで実施。県内で活動するアマチュア劇団や市民と SPAC俳優・スタッフとの共同創作は、事業終了後に続く多様なネットワークをもたらした。令和4年度には、東京芸術祭のプログラムとして、宮城聡演出による美加理のひとり芝居『夢と錯乱』を東京で上演することで、演劇プロデューサーら専門家の目にふれることができた。

年度	作品数	公演数	入場者数
H30	2 (2)	4 (4)	1,208 (901)
H31	1 (1)	13 (14)	2,838 (3,828)
R2	0 (1)	0 (1)	0 (1,300)
R3	1 (1)	2 (2)	520 (750)
R4	1 (1)	3 (3)	503 (660)
合計	5 (6)	22 (24)	5,069 (7,439)

3) 教育プログラム

※カッコ内は目標値

小学生から高校生までを対象とする教育プログラムでは、コロナ禍においても、オンラインツールを導入したり、映像を提供するなどして事業を実施することで、若い人たちが演劇やダンスに触れられる機会を継続して提供することができた。

年度	事業数	参加者数・入場者数
H30	4 (4)	1,313 (1,322)
H31	3 (4)	989 (1,340)
R2	4 (4)	461 (1,249)
R3	4 (4)	1,215 (1,195)
R4	4 (4)	1,196 (1,305)
合計	19 (20)	5,174 (6,411)

4) 地域活性化プログラム

※カッコ内は目標値

0歳児から高齢者まで幅広くアプローチしていく地域活性化プログラムにおいても、感染症対策を講じた上で概ね事業を継続して実施することができた。地域の文化団体とのコラボレーションによる作品の上演、ワークショップ等を静岡県内のさまざまな場所で行ったほか、コロナ禍で影響を受けた商店等との協働により、地域の振興・活性化を図ることもできた。

年度	事業数	参加者数・入場者数
H30	6 (7)	6,627 (6,965)
H31	6 (6)	6,338 (5,355)
R2	6 (6)	4,323 (5,200)
R3	6 (6)	2,949 (4,050)
R4	6 (7)	3,080 (3,760)
合計	30 (32)	23,317 (25,330)

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

●文化的意義(文化・芸術の水準がどのように向上したか。)

本事業の根幹をなすレパトリー創造プログラムでは、シェイクスピア、モリエール、イブセン、ブレヒト、イヨネスコ、泉鏡花、太宰治、遠藤周作、オリヴィエ・ピィ、レオノーラ・ミアノといった、古典的名作から現代作品までをとり上げることで、演劇史を俯瞰し、演劇鑑賞が一層楽しくなってゆくようなラインナップを提供することができ、「演劇の教科書」としてのレパトリーにさらに厚みを持たせることができた。

これらの作品をつくるために招聘した演出家は、西悟志、多田淳之介、ジャン・ランベール＝ヴィルド、ロレンゾ・マラゲラ、渡辺敬彦、今井朋彦、ユディ・タジュディン、ノゾエ征爾、セリーヌ・シェフェール、寺内亜矢子であり、SPACでの創作をとおして、SPACの俳優・スタッフにとっても多様な経験を積める場となった。

宮城聡演出の『顕れ』と『イナバとナバホの白兎』は、フランスの国立劇場と国立美術館でもそれぞれ上演され、高い評価を得た。また、令和4年度に上演した新作『人形の家』は、令和5年度に中国の阿那亜フェスティバルでの招聘が決まっている。

平成20年の初演以来何度も再演を重ねているSPACの人気作『夜叉ヶ池』は、令和3年度に感染対策を取り入れた演出で上演し、その公演映像がNHKのプレミアムステージで放送されるなど、大きな話題となった。さらに、令和4年度に上演したSPAC祝祭音楽劇の原点とも言える『ペール・ギュント』では、EPAD(緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業)2022実行委員会の主催により、8KカメラおよびDolby Atmos(R)などの機材を用いて収録し、303インチの大画面と大音量による上映会が実施された。

●社会的意義(地域社会に対してどのように貢献したか。)

レパトリー創造プログラムでは、中高生鑑賞事業を実施しており、地域の劇場として演劇の魅力を広く若い人たちに示す機会となっている。中高生向けの鑑賞パンフレットを無料配布し、上演の前後には制作スタッフがSPACの活動や上演内容について紹介するなど、作品理解を深めるための工夫を施している。また、終演後には、出演俳優や技術スタッフから客席の学生たちに向けて語られるメッセージに加え、作品中のワンシーンを解説付きで再現して技術スタッフの仕事の紹介をするなど、舞台を初めて観る子どもたちにとっても親しみやすいプログラムとしている。

国内ネットワーク形成プログラムのうち、『忠臣蔵 2021』においては、静岡県内のアマチュア劇団の主宰者らが演出助手や出演者として関わったほか、42名の市民がSPAC俳優・スタッフと共同創作を行ない舞台に立つことで、多様なネットワークが生まれた。こうしたつながりは事業終了後にも継続しており、地域での表現活動の活性化につながっている。

教育プログラム、地域活性化プログラムにおいても、オンラインを含め新しい方法を探りながら実施することで、幅広い年代の方々に演劇に触れる機会を提供できた。地域住民と協働して古民家やお寺などでの上演やワークショップ等を行うなど、コロナ禍による閉塞感を打破する起爆剤としても地域からのSPACへの期待は高まりを見せている。

●経済的意義(地域経済や国民生活にどのような変化をもたらしたか。)

コロナ禍においても「公演を中止しない」ことにプライオリティをおき、俳優から観客、観客同士はもちろんのこと、俳優・スタッフ同士においても感染を起こさせないための対策を施してきた。このことにより、本格的な舞台作品を地域の人々に安定的に供給できただけでなく、俳優・スタッフらアーティストの活動の場を継続して確保し、彼らの生活を守ることができた。また、下田や掛川等での一般公演の実施は、県民によるマイクロツーリズムを促し、コロナ禍で打撃を受けた地域の観光産業の活性化にも貢献した。

(2) 有効性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

本事業では、「創造」「文化交流」「教育」「地域活性化」の4つのアウトカムの発現に向け、7つの目標を設定している。各目標には関連するアウトカムが複合的に紐づけられており、各目標の達成が、すなわちアウトカムの発現につながっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかったが、マスクやソーシャルディスタンスを取り入れた演出やオンラインツールを駆使した稽古やワークショップなど、徹底した感染対策によってさまざまな活動を継続させることに注力した。延期となった事業もあったが、その他の実施事業により目標達成を補完し合い、すべてのアウトカムの発現を可能にした。目標の達成状況とアウトカム発現までのロジックモデルは下記のとおりである。

【目標の達成状況】

目標① 舞台芸術に係るアーティスト、スタッフ、サポーターを育成する

- ・指標①-1: 招聘アーティスト、所属俳優・ダンサー等にとって新たな技能(表現手法、技術やノウハウ等)獲得の契機となったか。その過程で新たな課題を発見共有し、課題解決に向けた対策を実施できたか。その技能が蓄積・継承されたか。
- ・指標①-2: 所属スタッフ等にとって新たな技能(企画立案に係るアイデア、創作技術やノウハウ等)獲得の契機となったか。その過程で新たな課題を発見共有し、課題解決に向けた対策を実施できたか。その技能が蓄積・継承されたか。
- ・指標①-3: サポーターの機能強化につながる取り組みの実施、文化キーパーソン等の開拓や連携強化につながる取り組みを実施できたか。ターゲットとなる潜在的なコミュニティの発見、既存のコミュニティの交流促進に貢献できたか。

レパトリー創造・国内ネットワーク形成プログラムを中心に、コロナ禍の中でも工夫を凝らして継続した創造と上演活動が、アーティスト・スタッフ育成の柱を担った。具体的には、所属俳優による演出への起用や、国内より気鋭の外部演出家や若手俳優を招聘しての共同創作、海外からの招聘アーティストと国内外の表現者によるワークショップ形式での作品制作を実施した。特にコロナ禍の中での、感染防止対策を取り込んだ作品づくり(ディスタンスを厳密に取り入れた演出・稽古、オンライン稽古の導入、アンダースタディ(代役)制の導入、マスクを一体化させた衣裳、来場者への徹底したインフォメーション等)は、演出家や俳優の創造方式・表現方法のみならず、衣裳等のデザインやスタッフワークにおいても新しい手法を生み出すこととなった。また、令和2年度以降積極的に取り組んだ県内ツアー公演は、条件の異なる会場へのスタッフの対応力向上に貢献したほか、新たな開催につながるサポーターの拡がりもみられた。

目標② 多様な舞台芸術作品の創造と劇場のアクセシビリティを向上させる

- ・指標②: 多彩な舞台芸術作品の上演や各種普及活動等の実施、地域住民等一般市民が、SPACの提供する作品や劇場にアクセスする上での物理的・心理的障壁の削減、県域における地域間ギャップ解消のための施策、バリアフリー・多言語化対応等の導入、観客及び事業参加者同士の交流、観客及び事業参加者とアーティスト・スタッフ等との交流の促進を図る取り組み等により、舞台芸術の創造に関する体験や作品享受の機会を拡大できたか。

レパトリー創造・国内ネットワーク形成プログラムにおいては、平成30・31年度は各種バリアフリーや社会包摂に関する取組はもちろん、県西部東部からの劇場直行バスの運行等によりアクセシビリティ向上を図った。一般向けには終演後のアーティストトークや出演俳優との交流機会の提供、観客が芸術総監督宮城聡に直接質問ができる新企画など交流プログラムを実施し普段劇場に足を運ばない層もフォローした。令和2年度以降は、コロナ禍の影響でそれまでの取り組みを見直し、県内ツアー公演に力を入れ、静岡芸術劇場までの来場が難しかった中学校・高校や一般の観客に鑑賞の機会を提供し、地理的なバリアを軽減させることができた。なお、公演に関係するワークショップの開催、ファミリー向け割引などを実施した。教育プログラムにおいては、中高生による演劇作品創作を通じ、劇場が学校の枠組みを越えた交流の場となり、事業後も仲間と演劇体験を共有するプログラムを提供するなどし、当劇場を拠点に人間関係が継続している。地域活性化プログラムでは、派遣先の要望に沿った規模や内容のプログラム提供を実現し、地域のニーズに細やかに応えるアウトリーチを実施した。

目標③ 国際プレゼンスを持った作品の創造と、それを享受できる観客の創造

- ・指標③: 国内外のアーティストの招聘、国内外の劇場や芸術団体・劇場との共同事業の実施、調査やネットワーキング、新たなファンドレイジングの導入等により、国際的なプレゼンスを持った作品の創造を実現できたか。観客及び事業参加者と国内外から招聘したアーティストとの交流の促進、各種普及活動等の実施により、国際的なプレゼンスを持った作品を理解・享受できる観客の創造につなげることができたか。

レパートリー創造・国内ネットワーク形成プログラムにおいては、5年間を通じて国内外の演出家による、世界に通用するクオリティをもったレパートリー作品を創造・上演した。古典の名作とあわせ現代の戯曲も扱い、様々な作品を通して演劇の普遍性を感じられるラインナップを実現。また、令和2・3年度は小学生低学年から楽しめる作品『みつばち共和国』も提供し、若年層の観客創造につながった。また、中高生鑑賞事業では、県内ツアー公演の成果も含め、対象事業において5年間で計53,060名の中高生に鑑賞機会を提供した。その他、教育プログラムおよび地域活性化プログラムの実施を通じて、演劇文化に触れる人口を増やしていくための取り組みを継続した。

目標④ 日本国内の舞台芸術拠点および地域の文化活動拠点とのネットワーク形成

・目標④: 国内の他の劇場・実演団体との共同事業等、多彩なアーティストの招聘、SPAC レパートリー作品の活用と普及、企画制作・創作技術面での情報交換や協働、ノウハウの交換等機能連携の実現、事業経費におけるスケールメリットの発揮、新たなファンドレイジングの導入につながる成果等、国内における実質的なネットワーク形成を実現できたか。

共同創作に関しては、平成30年度は新潟市りゅーとぴあを拠点とする専属舞踊団 Noismとの新作創作と、京都造形芸術大学舞台芸術研究センターとの創作、平成31年度には愛知県芸術劇場との共同創作作品の再演。令和2年度以降はコロナ禍の影響により、県域で劇場・ホール・市民劇団等の連携拠点となることに力を入れ、令和2・3年度で計14館の県内劇場・ホールとの共同制作によるツアー公演を実施。その他、市民参加型演劇作品『忠臣蔵 2021』の公演や、市立ホール「袋井市メロプラザ」を拠点とする市民劇団「メロー」の公演も実現。その他、地域活性化プログラムにおいても県内大学、アートセンター、博物館等各種文化施設との連携を継続し、文化活動拠点のネットワーク形成に寄与した。

目標⑤ 日本における演劇分野での国際ネットワーク拠点となるための活動に取り組む

・目標⑤: 海外からの招聘、海外の劇場・実演団体との共同事業等の実施、レパートリー作品の海外での上演、企画制作・創作技術面での情報交換や協働、ノウハウの交換等機能連携の実現、海外の舞台芸術の最新状況等の調査・研究、新たなファンドレイジングに関するノウハウの獲得等を実現し、その成果の国内への還元につながる活動を展開できたか。

平成30年度はフランス・パリのコリーヌ国立劇場からの委嘱で新作『頭れ』を創作、パリ・静岡公演とも成功を収めた。また、ジャン・ランベール＝ヴィルド(フランス)、ロレンゾ・マラゲラ(スイス)を演出に迎え、仏・リュニオン劇場＝リムージン国立演劇センターと SPAC の共同制作による新作『妖怪の国の与太郎』を創作。平成31年度は『イナバとナバホの白兔』新演出版の静岡・パリ公演を成功させ、欧州の劇場や舞台芸術関係者とのネットワークを強化。同年度『ペール・ギュントたち』では、インドネシア・日本・ベトナム・スリランカより様々な表現手法を持つアーティストを招聘し「リサーチ・ワークショップ方式」という創作手法を獲得。令和2年度は演出家が来日し『妖怪の国の与太郎』をブラッシュアップして県内ツアーを含めて再演し、セリーヌ・シェフェール(フランス)を演出に迎え『みつばち共和国』日本版をリモート稽古で制作。令和3年度は演出家が来日して『みつばち共和国』の県内ツアーを実施。令和4年度はジャン・ランベール＝ヴィルドとの共同制作により『守銭奴』を創作した。これら海外のアーティストや劇団・劇場との信頼関係、海外における劇団 SPAC の知名度を核に、国際ネットワーク構築において着実に成果を生んでいる。

目標⑥ 地域とのパートナーシップを構築し、地域課題にアプローチする

・目標⑥: 県域におけるアウトリーチや中高生鑑賞事業等をはじめとした各種普及活動等の実施規模の拡大やメニューの見直し、事業実施における地域の協力者や派遣先の新規開拓およびフォローアップの実施、地域間ギャップ解消への取り組み等により、地域からの信頼醸成や地域課題解決に向けた活動を展開できたか。

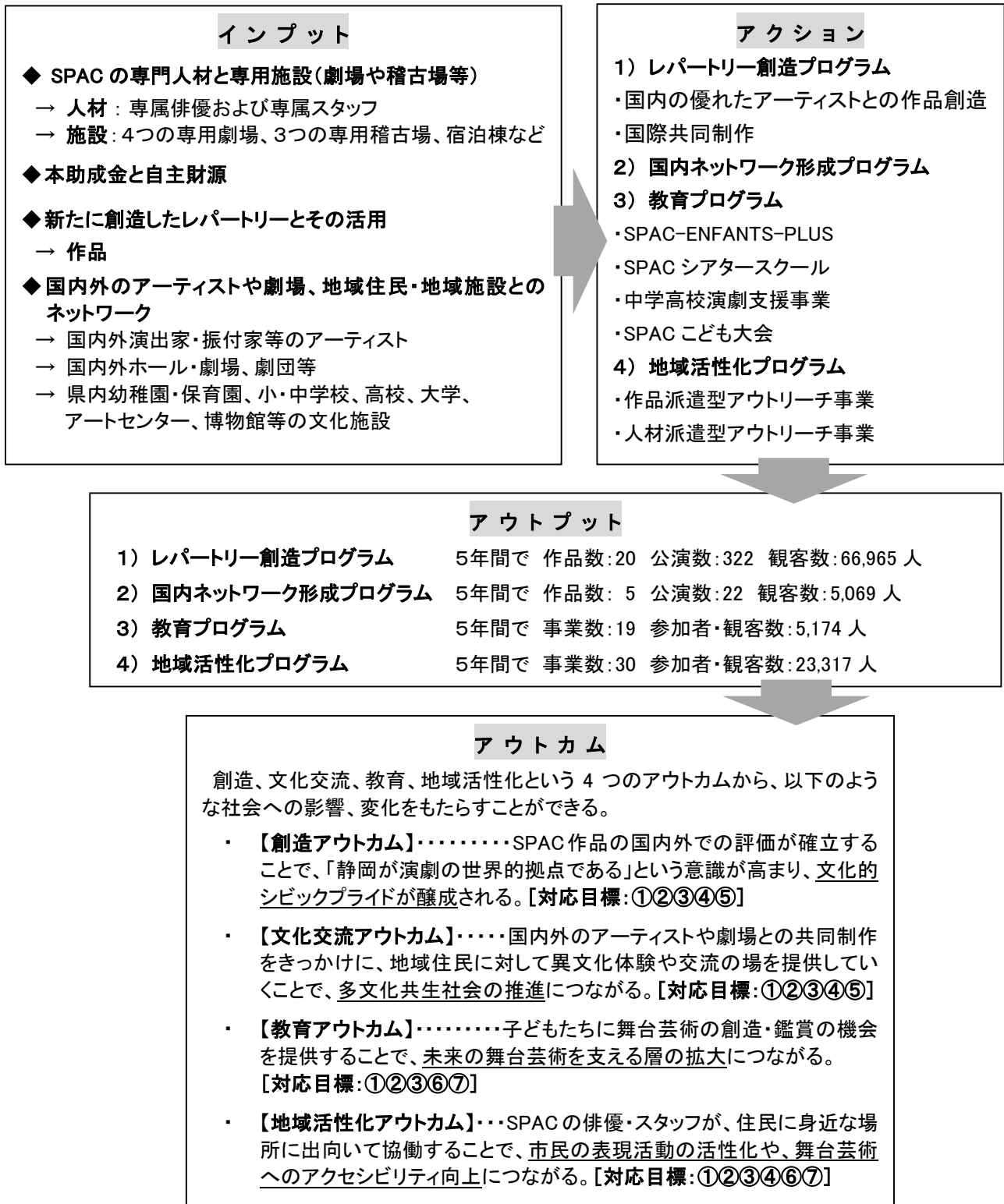
レパートリー創造・国内ネットワーク形成プログラムにおいては、中高生向けの鑑賞パンフレットを作成・無料配布、前説・後説で制作スタッフが各々の仕事や創作の舞台裏等について紹介する等きめ細かなアクションにより、中学高校の鑑賞教育に貢献。その他、ブラジル人学校や日本語学校、聴覚特別支援学校に向けて外国語／日本語字幕付きでの上演など、バリアフリーを主眼に置いた取り組みも実施。教育・地域活性化プログラムでは、学校や教育委員会、特に高校演劇部と積極的にパートナーシップ構築を図り、高校演劇部顧問会との連携等、ニーズの把握やプログラム内容の検討において信頼関係を醸成した。その他のアウトリーチプログラムでも、コロナ禍で実施可能な手法開発、教育・医療福祉・産業など舞台芸術と縁遠い対象も含めた既存のコミュニティをターゲットとし、実施準備の段階から事後の関係継続にも力を入れ、具体的な地域との共同創造活動を実現。また、アウトリーチプログラム「おはなし劇場」は、子育てしやすい地域づくりに向けた三島市との政策レベルでの連携につながる等、県内自治体との連携も活発化している。

目標⑦ あらゆる年代を対象とする、新たな教育機関としての活動に取り組む

・目標⑦: 各種教育プログラムにおけるメニューの新設や見直し、事業実施における地域の協力者や派遣先の新規開拓、事業参加者や協力者へのフォローアップ等の実施、所属俳優・ダンサーや所属スタッフの教育活動に関するノウハウの蓄積を図り、SPAC の教育機関としての機能を強化できたか。

教育・地域活性化プログラムにおいては、乳幼児や子育て世代に演劇鑑賞の機会の提供、小学生を対象とする事業や中高生を対象とするこれらの事業は、表現者として舞台に立つ入口となっているほか、舞台芸術に能動的に触れる層の裾野を広げている。その他、高校演劇部を主な対象とする事業、特別支援学校での成果が大きい事業、中高生と55歳以上のメンバーが世界レベルのダンス作品創造に取り組む事業など、世代や環境・背景を問わず、表現する力を育む場を創出している。これら SPACにおける演劇やダンスによる教育活動の成果は、地域住民や行政から高く評価されており、静岡県が令和3年に策定した「『演劇の都』構想」において積極施策として位置づけられ、県から SPACへの新規委託事業の創設等、具体的な成果が生まれている。

【アウトカム発現までのロジックモデル】



(3) 効率性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

SPACでは静岡に拠点を持ち、継続して事業に参加する俳優、舞台スタッフとの活動を展開できる体制を取っていることで、レパトリー創造プログラム(国内の優れたアーティストとの作品創造、国際共同制作)、国内ネットワーク形成プログラム、教育プログラム、地域活性化プログラムの各事業が有機的に関係しながら、5年間実施され、成果をあげることができている。各事業が単年度ごと適切な事業期間を確保し、計画通りに進んでいると同時に、5年間の事業計画で年度の区分をまたぎながら有機的に連携し、成果をあげている。特に以下の事業についてその成果が現れている。

◆ レパトリー創造プログラム(1)国内の優れたアーティストとの作品創造

本事業では、主に「SPAC 秋→春のシーズン」における SPACのレパトリー作品の創造を行ってきた。SPACで初めて演出作品を手掛ける西悟志、多田淳之介(以上、平成30年度)、渡辺敬彦、今井朋彦(以上、平成31年度)、寺内亜矢子(令和4年度)との新作創作活動では、SPACの創作環境と長期の創作が可能な体制を活かして創作を実施することができた。宮城聰演出(平成31年度、令和2年度、令和3年度、令和4年度)およびノゾエ征爾演出(令和2年度)事業では再演ではあるが、若手俳優を積極的に起用し、キャスティングの組み換えを行うことで若手芸術家の育成を図った。新作の場合には約2か月、再演の場合には約1か月の創作期間に対して、一般公演の他、静岡県内中高生への中高生鑑賞事業をそれぞれ実施することで、一つの作品につきおおよそ2か月の公演実施期間と鑑賞者数を確保し実施期間に見合う結果を得られている。

◆ レパトリー創造プログラム(2)国際共同制作

本事業では、海外の演出家・アーティスト・劇場との共同制作によって SPACのレパトリー作品の創造を行った。海外のアーティスト・劇場との共同制作で、それぞれ約2か月の創作期間を確保して新作を創作することは貴重な機会となる。この5年間で、『妖怪の国との与太郎』は平成30年度に初演し、令和2年度に再演、『みつばち共和国』は令和2年度に初演し、令和3年度に会場を変えての再演を実現、令和4年度には『守銭奴』を初演し、海外の劇場・アーティストとの継続的な連携を可能としている。ただ、令和2年度は海外との共同制作の実現が難しく、令和3年度以降に延期しながらの実現となった。

◆ 教育プログラム(1)SPAC-ENFANTS-PLUS

本事業は、振付家・演出家のメルラン・ニヤカム氏と静岡県の中高生、および55歳以上のメンバーがダンス作品を創作する事業である。一つの作品を、ワークインプログレスを経て本公演まで成長させていく事業で、平成30年度は『ANGELS』の本公演を実施、出演者は中高生のみであった。平成31年度以降は、新たに55歳以上メンバーが加わり、コロナ禍を経ながら『Reborn』を創作し、令和4年度に本公演を実現させた。各年度での公演に留まらず、毎月の継続的な稽古を実現することで出演者の成長が作品そのものの成長につながっている。

なお、令和2年度のレパトリー創造プログラム(2)国際共同制作『House of Us』と国内ネットワーク形成プログラム『忠臣蔵』は新型コロナウイルス感染拡大のため中止、令和3年度に延期となったが、『House of Us』は令和3年度も映像公開のみに留まり、『忠臣蔵』は公演時期変更のため、令和2年度末から事業スタートとなり、令和3年度事業としては令和2年度計画時よりも短期となった。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

全体としては、令和2年度および令和3年度事業が、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止もしくは予定に対しての一部縮小を余儀なくされたほか、令和2年度は J-LOD Live 補助事業との対象経費切り分けにより、当初要望額に対して決算時の支出額が大きな縮小が生じる結果となった。

【支出額の比較】

	要望時	決算時	要望比
平成 30 年度	145,357,000	128,409,337	88.34%
平成 31 年度	157,945,000	128,407,476	81.30%
令和 2 年度	174,078,000	114,198,097	65.60%
令和 3 年度	153,232,000	95,676,998	62.44%
令和 4 年度	193,450,000	182,872,261	94.53%

◇ レポートリー創造プログラム

一般公演の他に中高生鑑賞事業の無料公演を行うことでより多くの鑑賞者を獲得しているが、劇場までのバス代の負担など中高生鑑賞事業にかかる支出も多く、全体としての収益率は低い。しかしながら、こうした事業をはじめとする学校へのアプローチが、演劇アカデミーや学校派遣事業などの静岡県の新規委託事業の創設につながり、その受託による予算獲得につながっている。

◇ 国内ネットワーク形成プログラム

国内の劇場・機関とのネットワークを図り公演を実施する事業であるが、連携先劇場と適切な費用分担もしくは負担金を獲得しながら質の高い舞台作品公演を実現できている。また、事業費の面だけでなく、制作同士のノウハウの連携という点でも大きな成果を得られる事業である。

◇ 地域活性化プログラム

(1) 作品派遣型アウトリーチ事業および(2) 人材派遣型アウトリーチ事業はともに、地域にSPACの質の高い作品やプロ人材を派遣しながら派遣先から出演料や派遣料の収入を得ることができる事業である。継続して実施することで地域からの派遣・出演の要請も年々増えている。この事態に対し、本事業による実施と、静岡県の学校派遣事業の委託費を組み合わせることで多くの要望に応えることを実現している。

コロナ禍においても創造活動継続のため、独自の感染拡大予防ガイドラインを設定することで、令和3年度は、レポートリー創造プログラムでは事業の中止を避けることはできたが、地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業、および(2) 人材派遣型アウトリーチ事業の、外部との協働、連携が必要な事業においては、当初計画通りでの実施が困難である。感染拡大状況などを見ながら実施日を延期設定したり、最終的にはキャンセルになったりと、事業が長期にわたり企画制作に対しての大きな負担が発生しつつ、実績には現れない結果となることがあった。

(4) 創造性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

SPACは日本で唯一の「専用の劇場を持った公立劇団」として、パフォーマンス専用設計された静岡芸術劇場と舞台芸術公園を拠点に、人事権と予算執行権を持つ芸術総監督のもとで専属の俳優やスタッフが活動する独自の体制を敷いている。静岡芸術劇場には衣裳・舞台美術の創作のための工房、演劇に特化した音響・照明設備があり、専属スタッフが常駐し創作活動を続けている。さらに制作スタッフ自らが票券システムの管理運用や、多くの広報物についても自らデザイン制作を行っている。

芸術総監督を務める宮城聰の創造活動への評価は国内外で確立されており、平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)を受賞している。本事業の実施や、SPACの一連の活動を通じた結果、宮城は平成31年4月にはフランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章したことに続き、ヨーロッパの名だたる歌劇場や音楽祭からオペラ演出を依頼されるなど、国際的な評価やプレゼンスはますます高まっている。

静岡県の SPACによる取り組みは、平成25年に全国知事会第6回先進政策創造会議により「先進政策大賞」に選出された。さらに平成30年度に SPACは団体としてグッドデザイン賞に選出され、SPACの取り組みは「静岡という地方都市の顔を形作り、彼ら主導の演劇祭などを通して、徐々に静岡そのもののブランディングとシビックプライドに発展しつつあるように感じる」と評された。ハードとしての劇場や文化施設が同賞に選出された例はこれまでもあるが、劇団・劇場の活動というソフトがデザインとして具体的に評価された事例は稀有であり、SPACの活動の独創性、新規性、先導性が改めて認められたと言える。

また、令和2年度には、「SPACの劇配!～アートがウチにやってくる～」というコロナ禍に対応した新たなパッケージプログラムを創出。これは本助成を活用して実施した、電話で俳優による生の朗読を届ける「でんわde名作劇場」、オンラインによるリーディング体験ワークショップ「オンライン・リーディングカフェ」、医療・福祉施設等向けの簡易ラジオ放送を活用した朗読公演「出張ラジオ局」に加え、自主財源による、教育現場向けの俳優による動画配信「教科書朗読」、創作・技術部による美術ワークショップ「アートおとどけ工房」などを含めたもので、本プログラムは令和3年12月に「第1回日本アートマネジメント学会賞」を受賞した。

さらに、令和5年度には、静岡県が東アジア文化都市に選定され、SPACはその広報アンバサダーを担い、宮城聰は、総合芸術プロデューサーを務めることとなった。

【各プログラムの成果】

平成30年度から令和4年度にかけて事業を遂行するにあたり、何よりも大きな影響を与えたのは、やはり令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大であった。地方の公共劇場・劇団として、芸術文化を地域の住民に提供することを使命の一つとするSPACにとって、コロナ禍でもレパートリー作品の上演を始め一連の活動を停止することなく継続し、そのクオリティーを落とさずに実施する、ということが何よりも大きな課題となった。その点においてSPACは日本で唯一の〈専用劇場を持った公立劇団〉であるという独自性や、芸術総監督が人事権と予算権を持つ組織体制、俳優や舞台スタッフの多くがSPACの活動拠点の周辺に在住しているといった当組織ならではの特徴、これまでの経験の蓄積を最大限に活かし、日本のみならず世界の舞台芸術界がこれまでにない打撃を受ける中、他の劇場・音楽堂にはない独自のスタイルで、臨機応変な活動を継続することができた。その結果、多くの事業において、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限や変更を被りながらも、それらをそのまま活動・芸術表現上の制限ととらえるのではなく、アーティストからなる集団としての劇団ならではの仕方に対処し、新たな表現や企画に結実させた。

以下では、(平成2年度以降のコロナ禍での対応も含めながら、)平成30年度から令和4年度にかけて実施された各プログラムの創造性について述べる。

◇レパートリー創造プログラム

「(1)国内の優れたアーティストとの作品創造」と「(2)国際共同制作」の枠組みで、10本の新作を含む20本の作品を上演することができた。

国内の優れたアーティストとの作品創造では、外部演出家として西悟志、多田淳之介、今井朋彦を招き新作を創作。SPAC俳優からは近年演出も手掛ける渡辺敬彦、寺内亜矢子に初のレパートリー演出を委ねた。各作品ともに今後更なる活躍が期待される人材の育成の場となった。また、宮城演出の『グリム童話』では、1ヶ月に渡るロングラン公演の中で、主役を計4人の俳優が週替わりで演じるクワトロキャストとすることで、本作で求められる独特な演技スタイルを団内で改めて研究し、ベテランから若手に継承する場にもなった。

SPACでは、コロナ禍での活動となる令和2年度、3年度は、稽古中のみならず本番でも声を発する出演者はマスクを着用し、出演者間の身体接触は避け、小道具の直接の共有も避けることなどを原則とする、他の劇場や劇団にも例を見ない独自の厳しい感染症対策ガイドラインを設けた。また令和2年度には実験的に、アンダースタディ(代役)制やダブルキャスト制を導入した。これにより、稽古・本番期間中、万が一座組内でコロナウイルス感染者や体調不良者が発生しても、座組内には濃厚接触者が発生しないことを前提にした代役出演により、中高生向け公演を含むレパートリーの長期公演中止を避けることができる体制を整えた(実際、代役が出演するケースもあった)。また、再々演となるノゾエ征爾演出『病は気から』では、コロナ禍を原戯曲の書かれた時代のペスト禍に重ねあわせて、舞台上での感染症対策を台本や演出に入れ込んだ。

国際共同制作では8作品を創作・上演したが、多くの作品で SPACが劇団として培った集団創作の力が質の高い作品創造の重要なファクターとなった。『妖怪の国の与太郎』(ジャン・ランベール=ヴィルド、ロレンゾ・マラゲラ演出)の再演では、日本の妖怪をテーマにしたワークショップから始まり、俳優たちの作った小さなピースから次第に各シーンや台本が形作られていく創作方法が採られた。コロナ禍への対処としては、途中に差しはさまれることとなった舞台床面の消毒を幕間のショーとして演出したり、出演者のマスクを衣裳の一部としてデザインするなど、アーティストたちは、最初は創作の制限ととらえた厳しい感染症対策を、それぞれの仕方新しい表現の形に昇華して上演を実現した。

また、パリのコリーヌ国立劇場からの委嘱で世界初演した『顕れ』は、アフリカ社会の分断を生んだ奴隷貿易の実態を神話的世界で描いた現代戯曲で、作品創作では演出家や翻訳者、各セクションのプランナー陣のみならず、俳優たちも個々にリサーチをして得た知識を共有し、議論しながら各シーンを創作していく手法が採られた。集団創作は、演出家や少数の主要メンバーが手際よく全体を取り仕切り導いていく稽古場よりも、はるかに時間と労力を要するが、戯曲がないところからの作品創作や、人類全体に及ぶような問題や神話や叙事詩を扱う壮大なスケールの作品創造においては、一人の演出家が主導した場合には決して得られない強度と懐の広さのある作品が生まれる。特に『顕れ』では、フランス・パリ公演でも静岡公演ともに大盛況となり、SPACの持つ集団創作の力が、本作の成功の鍵となっていると高い評価を得た。

◇国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作)

県外との連携では新潟市りゅーとぴあを拠点とする同館専属舞踊団Noism、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、愛知県芸術劇場と、コロナ禍以降は県内のアマチュア劇団と市民との共同、令和4年度には東京芸術祭のラインナップとして作品を創作・上演した。

日本で唯一の公立劇場専属舞踊団 Noism の作品には、過去にも SPAC 俳優が出演しているが、『ROMEO&JULIETS』には最多の8名が出演した。舞踊家の雄弁な身体と俳優が自在に操る言葉の旋律が重層的に鳴り響く、舞踊でも演劇でもない「劇的舞踊」でシェイクスピアの悲劇を新たに提示した。鍛錬を重ねる創作集団 Noism と SPAC による共同制作でしかできない質の高い創作を実現した。

京都造形芸術大学舞台芸術研究センターとの共同制作による渡邊守章演出『繻子の靴』(平成28年初演)は上演時間が8時間に及ぶ超大作で再演は困難とされていたが、専用の劇場や稽古場、宿泊施設、それに俳優や舞台創作スタッフを擁する SPACのリソースを最大限に活かすことで、「ポール・クローデル生誕150周年記念」として、新演出により静岡で上演を果たした

静岡県内のアマチュア劇団と市民参加による『忠臣蔵』は、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大で延期に追い込まれたものの、翌年に会場を屋内会場から野外劇場に変更し、様々な感染症対策を施すことで実現にこぎつけた。プロの俳優・スタッフ、アマチュア劇団のメンバー、市民参加者が共同作業をおこなうことによって、このような状況下でも可能な市民参加劇のあり方を示すことができ、参加者同士の強い連帯を生むことができた。

宮城聡が SPAC 芸術総監督に就任して以来、初めてのひとり芝居演出となった『夢と錯乱』を東京芸術祭 2022 のプログラムとして上演した。多くの専門家の目に触れることで、海外公演へとつながり、セルビアの演劇祭に招聘された。

◇教育プログラム

(1)SPAC-ENFANTS(スパカンファンプロジェクト)、(2) SPACシアタースクール、(3)演劇奇跡のレッスン、(4)こども大会の4つの事業を継続して実施している。コロナ禍においては、劇場での対面の実施を断念せざるを得ないケースも多々あったが、できる限り事業そのものを中止するのは避け、オンラインでの代替ワークショップを行うなどの対応をした。各プログラムともに、年度をまたいで継続する参加者も多く、参加者個々の着実な成長がみられる。以下、代表的な2事業について詳述する。

(1)SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクトは、静岡県から世界で活躍する舞台芸術家の輩出を目指し、平成22年度に開始した事業であるが、フルサイズの作品を2作品完成させたのを機に、平成31年より55歳以上の大人も参加者に加え、中高生とシニアによる世代をつなぐダンスプロジェクト「SPAC-ENFANTS-PLUS」に発展させた。対象年齢を絞った一般参加型プロジェクトはすでに多く見られるが、中高生とOver55という世代を越えた参加者が集まり一緒に作品創造を行うものは、まだあまり類を見ない。アンチエイジングがもてはやされている昨今、年齢を経て生じる身体能力の変化が、とりわけそのまま表現に現れるダンスの領域において、身体の不自由さを抱えたOver55のメンバーと10代の中高生が共同創作を経て、「何かが出来ない」ことへの肯定的な価値の発見から、生と死と身体の関係扱った、これまでにないダンス表現の地平の出現が期待された。平成31年からのオーディションやワークショップを経て、令和4年度にはこの新方式による最初のフルサイズ作品『Reborn』を発表した。この作品は、社会へのメッセージ性、舞台芸術の創作可能性という点でも、新規性において優れた企画となった。

(2)SPACシアタースクールは、学校の夏季休暇の間を利用して静岡県内各地から様々な中高生が集まり、演劇の面白さ、奥深さを体験することを通して、他者への共感や多様性の尊重、未知への好奇心といった創造的感性を育むことを目的にした事業である。プロを目指す中高生を対象とした事業ではないが、継続者も多く、事業後の本人・保護者へのアンケート結果からも、参加者の満足度は非常に高い事業となっている。これは数々の作品創作で様々な舞台表現手法を、ワークショップで様々なファシリテートの知見を得た SPACのプロの俳優やスタッフが、参加者各人を丁寧にケアしながら、参加者全員の集団創作で最終的に一つの作品を作り上げている部分に負うところが多い。本事業への参加を通じて舞台芸術の仕事に関心を持つ者も多く、参加者たちからの進路相談や、大学の演劇コース受験に向けたアドバイスを求められる事例もある。また、SPACでは令和3年度より、県からの委託事業として、〈世界で活躍できる演劇人〉を目指す若者の感性を育むことを目的とした高校生対象の1年間・通年制の演劇塾「SPAC演劇アカデミー」を運営しているが、本事業への参加を経て、アカデミーへ応募する者も多い。静岡に住み学びながら、演劇人として世界に挑戦できる場が若者に開かれていることは、地域にアーティストが住み、活動する SPACならではの独自性であると言える。

◇地域活性化プログラム

各企画の講師、コーディネーターを SPACの俳優やスタッフが務めることで、地域課題やニーズに沿った柔軟なプログラムを多数提案・展開しているが、大きくは(1)作品派遣型と、(2)人材派遣型の2種類のアウトリーチ事業に分けることができる。平成30年度からは、既存の企画に加えてダンス教育の発展に資することを目的に「みんなで育てよう!ダンスの種プロジェクト」を開始した。

平成31年度には、「静岡県子どもが文化と出会う機会創出事業」の一環として静岡県からの委託を受けて、学校訪問プロジェクト「ひらけ!パフォーミングアーツのとびら」を新たに実施した。各学校や放課後児童クラブなどを訪問し、計28件、1,968名の子ども達に演劇やダンスに触れる機会を提供し、地域の学校現場における SPACの認知度向上と、県立劇団としての公益性に対する評価を高めた。また、地方自治体と公立劇場/劇団の連携についてのモデル的な事業形態として、全国に創造型公立劇場の存在意義をアピールすることができた。

令和2年度には新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な企画の実施が困難となったものの、内容に応じてオンラインでの開催や映像・DVD提供など代替形式を取り入れた。劇場での公演ができなくなった春から夏にかけては劇場に足を運ぶことが難しい状況下でも人々にアートを届ける活動「SPACの劇配! ~アートがウチにやってくる~」にて様々なプログラムを急遽展開し、各メディアからも大きな注目を集めたほか、「第1回日本アートマネジメント学会賞」受賞にもつながった。その中でも、「でんわ de 名作劇場」と「出張ラヂオ局」は、翌令和3年度には本助成の申請事業に位置づけて実施し、劇場に来ることができない状況にある人々にコロナ禍でも安心して楽しめる演劇的体験として喜ばれた。令和4年度には SPAC 出張朗読公演・出張劇場の初の試みとして外部演出家を迎えて創作し、県内の高校にて上演するなど、SPACのネットワークを生かした活動もあらわれている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。

【国内外からの評価】

本項目については、各プログラムの中でも特に高い評価が顕著であったものみに絞って言及する。

◆レパトリー創造プログラム

<国際的な評価の向上>

平成30年度のレパトリー創造プログラム『顕れ』は、フランスのアフリカ系作家ミアノ氏によるアフリカ社会の分断を生んだ奴隷貿易の実態に深く切り込む戯曲であるが、初演は宮城聰の演出による SPACで創作をとの強い希望で、フランス・パリのコリーヌ国立劇場からの委嘱を受けて制作された作品である。現代作家の作品のみを上演するフランス・コリーヌ国立劇場がシーズン開幕作を日本の劇団へ委嘱するのは前代未聞のことであり、同劇場での世界初演では、フランスの各紙で、以下のような高い評価を得た。

●ル・モンド紙 2018年 9月 23日

「アヴィニオン演劇祭において『アンティゴネ』を成功させたかの日本人演出家・宮城聰は、今度はカメルーン人作家レオノーラ・ミアノの詩情と言葉の息吹とを見事に昇華させてみせた」

●レゼコー紙 2018年 9月 25日

「日本の演出家・宮城聰は（中略）、レオノーラ・ミアノの神話的物語を雅やかに描き出した。日本とアフリカの混淆が普遍的な歌を産み落とし、鋭くも静謐に満ちたヒューマニズムを謳いあげる。」

また、国内紙では、「・・・SPACは近年、仏アヴィニオン演劇祭で賛辞を集めるまでに成長した。仏国立コリーヌ劇場から委嘱され、先に凱旋公演した「顕れ」（レオノーラ・ミアノ作）も専属劇団の魅力在前面に出す傑作だった。（中略）演劇の個性は本来、練り上げられたチームカラーとして表れる。豊かな演劇の創造のためには目に見えない日々の「基礎研究」が欠かせない」（日本経済新聞/平成31年2月2日/「公共劇場の挑戦 集団で創作」）と評された。本記事では、作品自体を評価するのみではなく、舞台という総合芸術では、作品の質には劇団という集団による継続的な共同作業が、重要なファクターとしてあることが、改めて指摘されている。

さらに、令和4年度の新作『人形の家』（演出：宮城聰）では、出演者6名という小編成であり、宮城作品ではおなじみの俳優による生演奏のない作品となったが、「鍛錬されたせりふが味わえる室内楽的秀作」「初めて作品にふれる人にもすすめたい見事な舞台」と評された。（日本経済新聞/令和5年2月17日）本作品は、中国の阿那亜フェスティバルでの上演が決まっている。

<コロナ禍という逆境を逆手に取った上演>

ノゾエ征爾潤色・演出の『病は気から』（平成24年初演）は、令和2年度に上演するにあたり、台本や演出をコロナバージョンに改めた。ノゾエ潤色によるSPAC版『病は気から』は、元々、原作者で俳優でもあったモリエールを劇中の主人公アルガンと重ね合わせた劇中劇構造を取るが、当年度の上演にあたっては現代のコロナ禍をモリエールの時代のペスト禍に重ねあわせて、舞台上で行われる感染症対策までも台本や演出に巧みに入れ込むことで、現在のコロナ禍を生きる我々の状況をも重ね合わせて見せた。もともと多層的な見え方ができる作品であったが、今回の改編によって、現在のコロナ禍を生きる我々をも映し出す三重構造が見え隠れする現在の状況だからこそ可能な上演が生まれた。西洋の演劇を専門とする演劇研究者からも、今回のバージョンは、現代日本におけるモリエール受容の卓越した事例として国際的に紹介するに足る作品だと評価された。

<コロナ禍での公演再開と舞台上での感染症対策 地域にある劇場として>

令和2年度のコロナ禍での公演再開は、県内を中心に多くのメディアで注目を浴びた。それらは、公演再開を喜ばしいニュースと知らせるのみではなく、SPACの舞台上での俳優のマスク着用にまで及ぶ徹底した感染症対策や、海外アーティストが来日できない状況でもリモートでの稽古を実施して新作の上演にこぎつけたことにまで言及したのも多々あった。

SPACのレパトリー作品は一般向けのみではなく、平日は中高生の学校単位での鑑賞事業公演も行っている。まん

延防止等重点措置が出され県境をまたぐ移動を避けるよう要請された時期には、学校では、修学旅行や部活の遠征を中止したり、県外からの実演家団体の来訪が困難となり芸術鑑賞教室が中止したりせざるを得ないケースも見られた。そのような中、SPACは地域に拠点を持って活動する公立の劇団のミッションとして、舞台上でも徹底した感染症対策を施し、一般の観客のみならず、より安心して若い世代に本格的な舞台芸術の鑑賞機会を提供できる環境をととのえた。学校側の判断で鑑賞をキャンセルする学校もあったが、中には「様々な行事が中止になる中、せめてSPACの舞台だけは生徒たちに見せたい」と、移動や観劇による生徒間の感染拡大を不安視する保護者に対してSPAC側の感染症対策を伝え、学校側でも保護者の不安を解消するような対策をとり、鑑賞実現にこぎつけた学校もある。

◆国内ネットワークプログラム

<共同制作作品の国際的評価/海外招聘への兆し>

SPAC同様に国際的な活動を展開するNoismとの共同制作による『ROMEO & JULIETS』は、舞踊評論家からも「世界に誇るべき新バージョンの誕生」(Noismサポーターズ会報第35号/平成31年1月/山野博大)、「SPAC-静岡県舞台芸術センターの専属俳優を前面に起用し、ダンサーの身体性と拮抗する言葉の力を際立たせて、舞台芸術としての新境地を切り開いた」(公明新聞/平成30年9月5日/Noismの快挙/池野恵)などと、高い評価を受けた。SPACとNoismはすでに単独で数々の海外公演を行っているが、2団体の共同制作作品が国際的に評価され、海外招聘される可能性も見えてきた。(SPAC俳優が2人出演したNoism劇的舞踊 vol.3『ラ・バヤデー—幻の国』は、すでに平成30年11月にロシア・サンクトペテルブルクにて海外招聘公演を行っている。)

また、令和4年度に東京芸術祭のラインナップとして上演した宮城聡演出のひとり芝居『夢と錯乱』は、セルビアの演劇祭より招聘されるなど、上述の『人形の家』に続き、海外からのSPAC作品を熱望する声が高まりを見せている。

◆教育プログラム

<質の高い教育プログラム>

SPACが現在実施している教育プログラムは、プロを養成するものではなく、一般を対象としたものであるが、その質の高さは参加者の満足度のみならず、観客アンケートからもうかがえる。SPAC-ENFANTSプロジェクトでは平成30年度に中高生による2作目の創作の集大成として『ANGELS』を上演したが、公演を「とても良かった」もしくは「良かった」と回答したのは全体の96%、同年のSPACシアタースクール発表会で同様に回答したのは全体の87%であった。記述式回答でも「中学生の公演とは思えなかったです。完成度の高い作品です。」などの感想が寄せられている。

◆地域活性化プログラム

<コロナ禍で芸術はエッセンシャルなものとして>

コロナ禍で劇場に行くことができなくても可能な演劇的体験として展開した「でんわde名作劇場」と「出張ラヂオ局」は、外出ができなくなり、人とのライブな接触を渴望する人々のニーズにこたえる新企画として、メディアからも注目を集めた。新聞評でも「…苦難から積極的な試みも生まれた。静岡県舞台芸術センター(SPAC)の宮城聡芸術総監督は「電話演劇」や「訪問演劇」で孤立者とコミュニケーションを結ぶ実験をした。社会的課題と向き合う演劇のあり方が進化している」(令和2年12月11日/日本経済新聞)など、各紙の回顧でも舞台芸術界の先導的な取り組みとして取り上げられ、演劇をはじめとする芸術は、人が生きるにあたって必須なものだ、ということに社会に再認識させる契機となった。

(5) 持続性（平成30年～令和4年度 5か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(1) 事業運営

事業計画、事業実施状況については、芸術総監督と制作部および創作・技術部各セクションのチーフの月例ミーティングにより、定期的にモニタリングを行っている。そのほか毎月芸術局全体でのミーティングを実施。

令和2年度以降は、コロナ禍においても SPAC 独自の感染症ガイドラインを策定し、柔軟かつ継続的な事業運営を行った。具体的には、感染防止対策を取り込んだ作品づくり（ディスタンスを厳密に取り入れた演出・稽古、アンダースタディ（代役）制の導入、オンライン稽古、マスクを一体化させた衣裳、来場者への徹底したインフォメーション等）を実施、また、当初計画通りの実施が難しい場合でも、オンライン配信や参加人数制限などを導入し、一体感のある組織の中で、各事業に関わる俳優・スタッフが綿密にコミュニケーションを取り、柔軟にアイデアを出し合って事業を中止することなく実施につなげた。特に、オンライン配信や舞台作品の映像化、アーカイブ化に新たに取り組んだことは、事業収入確保・国内外への発信など事業の新たな発展につながっている。

また、地域活性化プログラムでは、コロナ禍に対応した新たな取り組みとして、様々な新規プログラムを開発。本助成を活用したものだけでも、地域の舞台芸術ファンに向けての「でんわ de 名作劇場」、既存のコミュニティ向けには「オンライン・リーディングカフェ」、医療・福祉施設等向けには「出張ラヂオ局」など、ターゲットごとに特徴を持たせたプログラムを準備し、コロナ禍で閉鎖的になる地域社会に対し積極的にアプローチを続け、地域の繋がりにおける持続性を確保した。

さらに、平成31年度にスタートした静岡県からの委託事業「子どもが文化と出会う機会創出事業」では、レパートリー創造プログラムで創作した作品を静岡県内の東部・西部地域で学校招待公演を行ったほか、地域活性化プログラムのメニューを基にした県内各地の学校への訪問プロジェクトが実施されている。令和3年度に策定された静岡県の「演劇の都」構想では、4つの柱「SPACの躍進」「県内舞台芸術の振興」「次世代の人材育成と風土の醸成」「演劇の都」の拠点づくりが掲げられており、SPACのさらなる持続と発展が計画され、令和5年度には静岡県が東アジア文化都市に選定されたことを機に、SPAC が広報アンバサダーを担うこととなり、静岡県の文化政策における SPAC のプレゼンスはますます高まっている。

(2) 経営戦略

財源の半分を占める静岡県一般財源補助金は、平成29年度に一時減額され、平成30年度以降持ち直したが、令和2年度、3年度は再び削減となっている。一方で静岡県の新規事業（SPAC演劇アカデミー※、子どもが文化と出会う機会創出事業）の受託を受けるなど、財源種別の多様化を図っており、これまでの活動を持続するために必要な財源は、一定量の基準で確保できている。（※SPAC演劇アカデミーは本事業計画の教育プログラムの成果が認められ、令和3年度からスタートした。）また、令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により全体の事業収益は減少したが、公演事業に代わる新たな事業（オンライン事業、映像配信など）の受取補助金・委託金を獲得し、財源の多様化を図った。コロナ禍の影響で個人会員である「SPACの会」の会費収入も減少傾向にあったが、公演に代わるサービスを導入し、令和3年度以降は再び増加させることができた。しかしながら、安定的な経営に向け、法人賛助会員を中心とした地域経済界から支援、公演料収入の確保をはじめ、更なる顧客の獲得が喫緊の課題である。令和2年度からは寄附金の窓口を新たに設けるほか、今後は企業協賛の獲得にも力を入れていく必要がある。

さらに、レパートリー創造プログラムで創作した作品を県内および国内の劇場で買取公演をできるよう働きかけ、公演料収入を得ている。（例：令和2年度に創作した『みつばち共和国』は、令和4年度に沼津市民文化会館での買取公演で上演され、令和5年度には宮崎県立芸術劇場の主催で都城市総合文化ホールにて上演されることが決まっている。）地域活性化プログラムでは、大学・高校などの教育機関や民間企業のイベントなど連携先が多岐にわたり、継続的な実施の要望も増え、人材派遣・作品派遣で得る講師料や上演料収入は安定して得ることができている。

経営状況については、設置者である静岡県の職員を交えたミーティングを定期的に行うことで調整・改善を図っている。特にSPACの収入全体に占める自主財源の割合の増加による運営の安定化が「静岡県の新ビジョン（静岡県総合計画）」の後期アクションプランで示されており、経営改善について検討を進めている。

(3) 人事戦略

SPACは、設立当初から専属の俳優とスタッフを擁する劇場・劇団の機能を併せ持つ。専属契約の更新回数には上限を設けず、所属俳優およびスタッフのうち半数以上が10年以上継続して契約し、劇場運営および各事業の中核を担うことで、安定した事業運営が可能となっている。一方、毎年、新規スタッフの採用も行っており（経験者・新卒ともに採用）、次代を担う専門人材の育成にも積極的に取り組んでいる。この5年間で新規スタッフとなったものは制作部が13名、創

作・技術部が17名おり、全スタッフ59名の内、20代の若い人材が約3割を占めている。事務局は県からの派遣職員がその業務を担い、俳優・スタッフからなる芸術局と同じ劇場で一緒に仕事を行い、県との良好な関係を続けるための重要なパイプとなっている。SPAC人材育成事業参加者の声から生まれたボランティアスタッフ組織「SPACシアタークルー」は令和4年度時点で63人のメンバーが登録しており、この5年間継続しているメンバーは30人いる。なかには10年以上継続して活動しているメンバーも複数おり、制作スタッフと同様に作品の創作現場にも密に関わり活躍している。

レパトリー創造公演、国内外の劇場・アーティストとの共同制作等を通して日々OJTを重ねることのできる環境が、長年に渡り我々の人材育成の基盤となっている。令和2年度は映像の配信技術が新たに求められる場面が多く、創作・技術部内で研修を行い、新たな技術の獲得が図られた。また、子育てや介護等スタッフの生活スタイルに合わせた多様な働き方ができる環境づくりを進めるほか、ハラスメント研修を定期的に行い、令和3年度は有志による検討を重ね「ハラスメントガイドライン」を作成した。

(4) ネットワークの構築

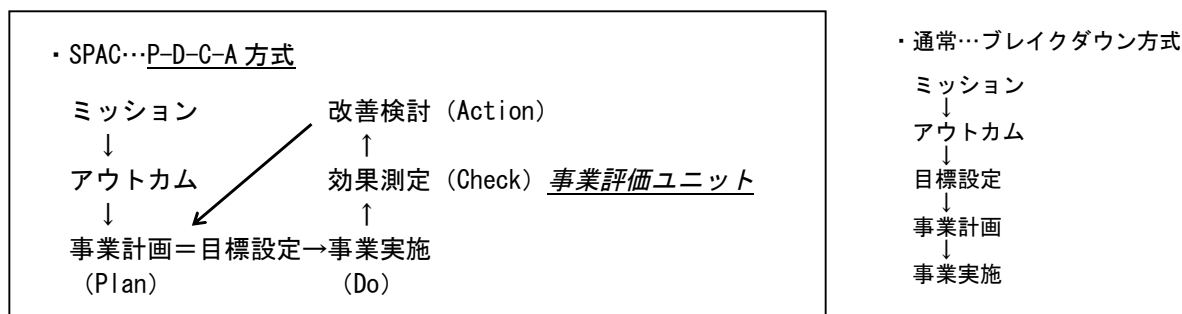
平成31年度より県から受託した「子どもが文化と出会う機会創出事業」によって、県内各地での出張公演およびアウトリーチ活動が可能となり、浜松市や下田市など地理的要因が課題であった自治体・学校・文化施設との連携を深め、新たなネットワークを構築するに至った。特に、下田市民文化会館では平成31年度より、レパトリー創造プログラムで創造した作品を毎年上演している。

国内ネットワーク形成プログラムでは、平成30・31年度に、新潟市りゅーとぴあの劇場専属舞踊団Noism、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、愛知県芸術劇場と連携した作品の創作と上演を行い、費用分担や人材交流、情報・ノウハウの交換などを積極的に行った。令和3年度に実施した『忠臣蔵 2021』では、静岡県内で活動している演劇人（演出家・劇団主宰者など）を演出助手として採用したことで、県内の劇団との友好的な関係を築ききっかけとなった。令和4年度には東京芸術祭のラインナップとして『夢と錯乱』を上演し、演劇プロデューサーら専門家とのネットワークを強めた。

地域活性化プログラムでは、静岡県立清水南中学校・高等学校や静岡情報高等専修学校など、年間を通して継続的な授業への講師派遣を学校側からの要望で実施するようになった。学校など教育機関への人材派遣・作品派遣の数はこの5年間で増えており、連携先の拡大および講師・コーディネーターとなる俳優・スタッフの人材育成が進んだ。

(5) PDCA

本事業計画は、SPACの活動の根幹を成しており、レパトリー創造・国内ネットワーク形成・教育・地域活性化の4つに大別されるプログラムを継続的に実施することが、組織活動全体の発展につながっており、下記のPDCAサイクルによる持続的な発展を可能としている。



・Plan: 平成30年度に提出した助成金交付要望書に記載された通り、ミッションに基づき「創造アウトカム」「文化交流アウトカム」「教育アウトカム」「地域活性化アウトカム」の4つのアウトカムを設定。4アウトカムを横断し、相互補完する7つの目標を置き、各目標に対応した事業計画を行う。

・Do: 新型コロナウイルスの感染拡大や国際情勢などの状況の変化に対応しつつ、アーティストおよび専門家の人材を配置し、事業を継続実施。(※事業数および内容等は「妥当性」の自己評価を参照。)

・Check: 来場者アンケートの分析、各種メディアへの掲載状況の整理などのほか、内部スタッフは事業評価ユニットを用いた各事業担当者による自己評価をおこない、目標達成度についてのチェックおよび課題等についての次年度への引継ぎや、それに基づいた事業計画を策定する。

・Action: 地域ニーズの変化、コロナ禍の状況等に対応し、各事業の目的・実施内容を見直す。

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

●**創造アウトカム**……………SPAC作品の国内外での評価が確立することで、「静岡が演劇の世界的拠点である」という意識が高まり、**文化的シビックプライドが醸成される。**

SPACの創造活動に対する国内外での評価は、(4)創造性で示した通り高い評価が継続している。これにより、静岡県が「第4期静岡県文化振興基本計画」の成果として令和3年に策定した「『演劇の都』構想」では、SPACが中心的役割を担うことが明示されている。創造アウトカムについては、同構想の4つの柱の内「(1)SPACの躍進」として位置づけられ、SPACの創造および公演活動のさらなる充実が謳われている。

アウトカムの発現についても、(2)有効性で示した通り、コロナ禍の中も継続して着実に直接成果を生み出し、その蓄積の総体をもって一定のインパクトを示すことができたと考え。特に、創造したレパートリー作品のクオリティについては、国内外からの継続的な招聘依頼、作品委嘱など、実質的な評価を維持している。

最終成果＝ソーシャルインパクトを発生させるための課題としては、これらの成果を地域の住民や行政機関、文化施設へ、さらには全国の演劇・劇場業界以外の文化関係機関・団体へアピールし、作品流通の活性化を図る必要がある。また、県域では、静岡県による「令和3年度文化に関する意識調査」において、SPACの認知度は29.3%と平成30年度調査に比べて8.1ポイント上昇し、4年間で一定の成果を出したが、さらなる認知度の向上を図る必要がある。ただし、同調査では、項目「(SPACを)知っているし、実際に観劇したことがある」の割合が、全年齢層の中において18歳～29歳(最若年層)で最も高くなっており、長期的な展望につながると言える。これは中高生鑑賞事業等の地域における観客創造活動の着実な成果と考えられる。

●**文化交流アウトカム**……………国内外のアーティストや劇場との共同制作をきっかけに、地域住民に対して異文化体験や交流の場を提供していくことで、**多文化共生社会の推進**につながる。

文化交流アウトカムの発現には、①SPAC⇄国内外のアーティスト・劇場との協働、②地域へのアプローチとネットワークの要となるための施策、の2種類のアクションが必要である。

①については、コロナ禍により、令和2年度以降の海外からのアーティスト来日および県外の施設との共同制作に高いハードルが生まれた。対策としてICT技術を活用しての演出や稽古、本邦の水際対策ルールに準拠した厳密な招聘手続きなど、新たなノウハウを獲得しながら事業を継続したが、難易度は高かった。また、国内での連携においても、都道府県ごとに緊急事態宣言等の発令状況が異なる等、継続的なアウトカム発現に向けた事業の持続性の確保に苦労した。以上を踏まえ、令和2年度からは②に力を入れ、県域での連携に成果が見られたが、ソーシャルインパクト発生に向けて、Withコロナ時代を見据えた、さらなる手法開発が必要である。

●**教育アウトカム**……………子どもたちに舞台芸術の創造・鑑賞の機会を提供することで、**未来の舞台芸術を支える層の拡大**につながる。

教育アウトカムの発現には、創造プログラムと教育プログラム・地域活性化プログラムを連動させて取り組み着実な成果を生んでいる。各プログラムは単年度で途切れさせることなく、「SPAC ども大会」は24年間、「SPAC シアタースクール」は16年間、「スパカンファン」は13年間にわたって継続させている。このことにより、子ども時代にSPACの教育プログラムや地域交流プログラムを体験した世代が社会人となり、SPACの観客はもとより、地域における文化芸術活動の主体・サポーターとなっているほか、舞台芸術の熱心なファンとなることで、日本の舞台芸術を支える層の拡大に寄与している。また、当該世代が親世代となり、二世帯でSPACの活動に参加することが期待できる時期にきている。これらの長期的・継続的な取り組みは、専属俳優やスタッフに演劇を活用した教育活動のノウハウを蓄積させ、その成果は上記「『演劇の都』構想」の4つの柱の内「(3)次世代の人材育成と風土の醸成」として位置づけられた。これにより、県からSPACへの新規委託事業として、「SPAC 演劇アカデミー」「子どもが文化と出会う機会創出事業」「すぱっく おやこ小学校」等、教育アウトカムに基づく県事業の立ち上げにつながっている。

●**地域活性化アウトカム**……………SPACの俳優・スタッフが、住民に身近な場所に向いて協働することで、**市民の表現活動の活性化や、舞台芸術へのアクセシビリティ向上**につながる。

地域活性化アウトカム発現の中核を担う地域活性化プログラムは、その多彩なメニュー構成により、少人数の俳優・スタッフのチームを複数作り、様々なニーズに合わせたプログラムを同時並行で実施できることに強みがある。

この4年間で、市町の文化施設から教育機関、医療福祉分野、市民グループ、民間企業など連携先やチャンネルの多様化と拡大を推し進めてきたが、今後も持続・拡大が可能である。特に、教育・医療福祉・産業など文化芸術以外の分野との連携・協働においては、SPACが持つ人材や作品を新たな視点で活かし、舞台芸術の多面的な效用やソーシャルインパクトをもたらすことに繋がるため、引き続き長期的視野を持って取り組む必要性がある。

また、コロナ禍で新たに生まれた複数の新たなアウトリーチプログラムは、「劇場に行くことが困難な人」に対してより一層開かれたプログラムとして、舞台芸術へのアクセシビリティ向上にもつながった。これらのノウハウはしっかりと蓄積されており、持続性を担保している。さらに、地域の小さな朗読グループや市民劇団の創作活動・表現活動に、技術支援や人材支援をおこなう取り組みは、舞台芸術に関心を持つ市民の広がり貢献した。特に、SPACの活動拠点から離れた地域にある、県東部西部の市町の公共劇場と連携し、市民参加型の創作劇を上演する取り組みは、普段SPACの創作活動に参加することができない市民と、専属俳優やスタッフが緊密に交流できる貴重な機会となり、県内市町の公共劇場の事業の活性化や発展に寄与している。これらの成果は上記「『演劇の都』構想」の4つの柱の内「(2)県内舞台芸術の振興」として位置づけられた。